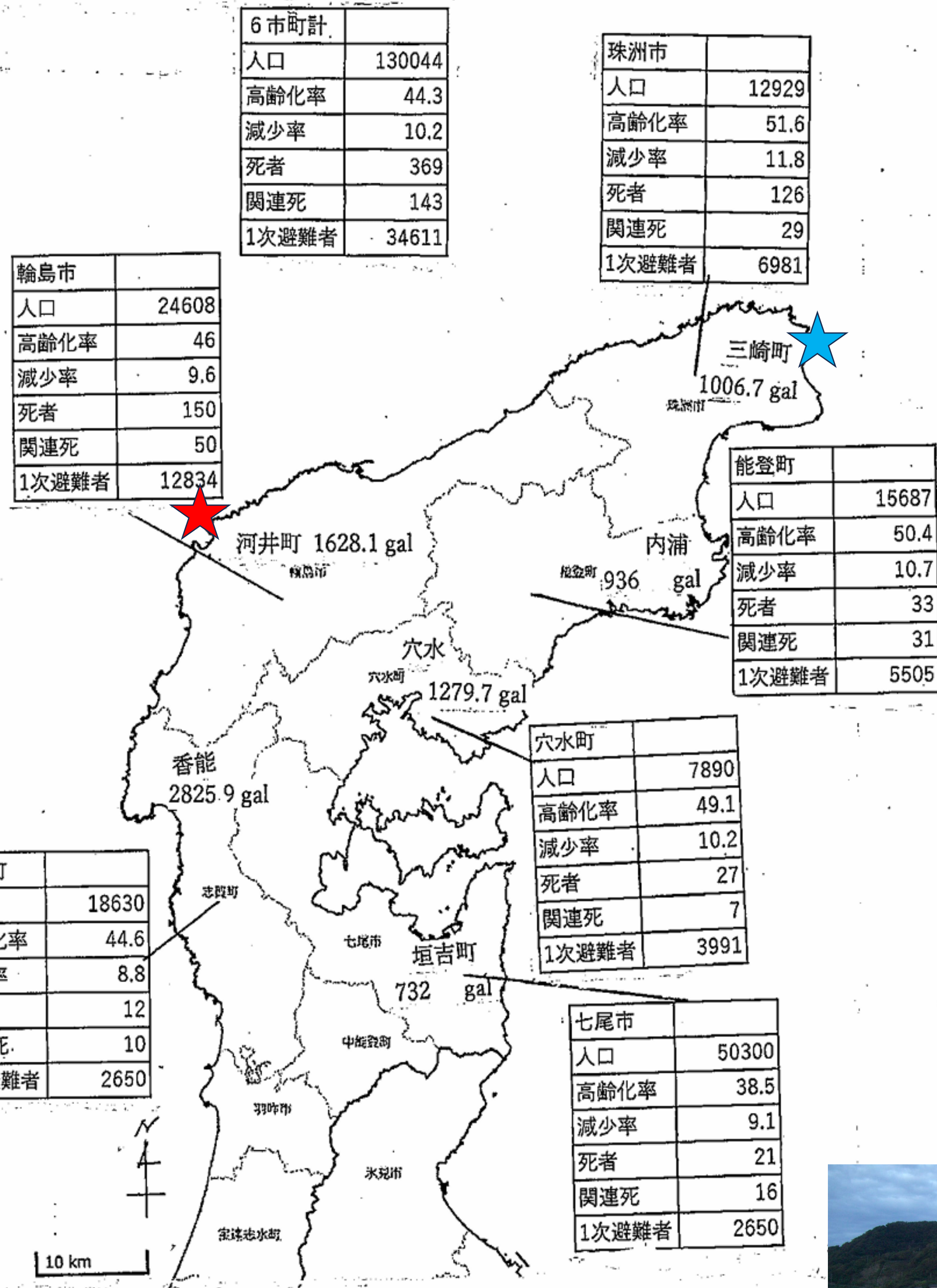


発表課題：災害は地域を映す鏡である。人口減と高齢化に直面する能登をおそった災害は、明日の日本が直面する課題を示している。能登の災害の事実を通して実態を知り、この社会の本質に迫ろうとするものである。

能登半島6市町の被害と人口動態

内容



能登半島は、9か月の間に地震と水害という連続する災害を受けた。被災により地域の人口減少、高齢化に拍車がかかっている。道路の寸断、水道の断絶、孤立集落が多く生まれた。インフラ復旧の遅れ、漁業、農業、観光という地域の産業の復旧のメドがたたない状況が続いている。

★ **輪島市門前皆月地区**：地震に伴う地盤隆起(4.5m)で、漁港が陸地化し、漁業が出来ない状況にある。9月の水害で犠牲者が生まれた。水害7日後、旧道は復旧したが、1か月後も水道の断水は続いている。湧水を飲料水にする状況にある。2021年106世帯205人、2024年には81世帯145人に減少。水害後は地区を離れる人が多く、現在は40世帯に減少。住み慣れた地域で自らのアイデンティティを守り育てようとする住民が、この地域の再建を目指そうと結束する動きもみられる。

★ **珠洲市三崎町地区**：地震直後に津波に襲われている。「テレビなど見てないで直ちに高台に避難して」、切迫したアナウンスに応じて、住民は高台に避難。津波の波高は木の枝に網の一部が残っていることから1.2m。海に近接する三崎小学校前の電柱には、標高2m、予想される津波11mの掲示。地震で1.5m余りの地盤隆起で、津波高は1.2mにとどまったが、地震直後に津波が発生するという地域の特性を踏まえた学校立地が必要であるという課題が示された。



人口は、2015年、2020年の国勢調査結果から得た。死者数は、2024年9月14日現在の数値、関連死は死者数の内数。その後、9月21日の水害で輪島市では15名の犠牲者がうまれた。